

# ゴウカライズ 数学

## 2025

### 大学入試 解答速報

# 東海大学 医学部 (1日目)

2/2実施



ゴウカライズ  
オンライン大学受験絶対合格プロジェクト



医学部受験なら  
ゴウカライズメディカル

ゴウカライズメディカル HP 公式LINE 無料相談実施中

次の空欄を埋めなさい。解答は分数の場合には既約分数の形で書きなさい。

1

(1)  $\sum_{k=1}^n \frac{1}{3k(3k+3)} = \boxed{\text{ア}}$  である。

(2) 関数  $f(x) = \left(\frac{4}{2^x}\right)^x$  は、 $x = \boxed{\text{イ}}$  のとき最大値  $\boxed{\text{ウ}}$  をとる。

(3)  $(x+1)^{26}$  の展開式における  $x^2$  の項の係数は  $\boxed{\text{エ}}$  である。 $26^{26}$  を 625 で割ったときの余りは  $\boxed{\text{オ}}$  である。

(4) さいころを 3 回投げ、出た目を順に  $x, y, z$  とする。このとき、 $x \leq y \leq z$  となる場合は  $\boxed{\text{カ}}$  通りである。

(5) 実部が 1 であり、虚部が正である複素数  $z$  において、 $z^3$  の虚部  $y$  がとりうる値は  $y \leq \boxed{\text{キ}}$  である。

(6)  $0 < \alpha < \frac{\pi}{2}$ ,  $\pi < \beta < \frac{3}{2}\pi$ ,  $\tan \alpha = 2$ ,  $\tan \beta = 3$  のとき、 $\cos(2\alpha + \beta) = \boxed{\text{ク}}$  である。

(7)  $0 < a < 4$  とする。直線  $l: y = ax$  と放物線  $C: y = 4x - x^2$  の共有点のうち、 $x$  座標が正である点を P とおく。この点 P の  $x$  座標は  $a$  を用いて表すと  $\boxed{\text{ケ}}$  である。また、 $C$  と  $l$  により囲まれた部分の面積と、 $l$  と  $x$  軸と直線  $x = \boxed{\text{ケ}}$  により囲まれた部分の面積の比が 2 : 1 になるのは、 $a = \boxed{\text{コ}}$  のときである。



2

四面体 OPQR において

$$OP = OQ = PQ = 2, \quad QR = 2\sqrt{3}, \quad OR = 4, \quad PR = 3\sqrt{2}$$

であり,  $\overrightarrow{OP} = \vec{p}$ ,  $\overrightarrow{OQ} = \vec{q}$ ,  $\overrightarrow{OR} = \vec{r}$  とおく.

(1)  $\vec{p} \cdot \vec{q} = \boxed{\text{ア}}$ ,  $\vec{q} \cdot \vec{r} = \boxed{\text{イ}}$  である.

(2)  $\cos \angle POR = \boxed{\text{ウ}}$ ,  $\vec{p} \cdot \vec{r} = \boxed{\text{エ}}$  である.

(3) 3 点 O, P, Q を通る平面を  $\alpha$  とし, 点 R から  $\alpha$  へ下ろした垂線と  $\alpha$  の交点を  $H$  とする.  $x, y$  を実数として,  $\overrightarrow{OH} = x\vec{p} + y\vec{q}$  とおく.  $\vec{p} \cdot \overrightarrow{RH}$  を  $x, y$  を用いて表すと  $\vec{p} \cdot \overrightarrow{RH} = \boxed{\text{オ}}x + 2y - 1$  であり,  $\vec{q} \cdot \overrightarrow{RH}$  を  $x, y$  を用いて表すと  $\vec{q} \cdot \overrightarrow{RH} = \boxed{\text{カ}}x + 4y - 4$  であるから,  $x = \boxed{\text{キ}}$ ,  $y = \boxed{\text{ク}}$  となる.

(4) 直線 PH と直線 OQ の交点を L とすると,  $OL : LQ = \boxed{\text{ケ}} : 1$  である.

3

$x, y$  平面上に 3 点  $O(0, 0)$ ,  $A(1, 0)$ ,  $B(1, \sqrt{3})$  をとり,  $\triangle AOB$  を考える.

(1)  $\angle AOB$  を二等分する直線  $l$  の方程式は  $y = \boxed{\text{ア}}$  である.

(2)  $\triangle AOB$  に内接する円  $C$  の半径は  $\boxed{\text{イ}}$  であり, 中心の  $x$  座標は  $\boxed{\text{ウ}}$  である.

(3)  $l$  と  $C$  の共有点であり,  $O$  との距離が小さい方の点を  $D$  とする. 点  $D$  の  $x$  座標は  $\boxed{\text{エ}}$  である.

(4) 辺  $OA$ ,  $OB$  と  $C$  に接する円  $C'$  の半径は  $\boxed{\text{オ}}$  であり, 中心の  $x$  座標は  $\boxed{\text{カ}}$  である.

(5)  $OA$  と  $C$ ,  $C'$  で囲まれた部分の面積は,  $C'$  で囲まれた部分の面積の  $\left( \boxed{\text{キ}} \frac{\sqrt{3}}{\pi} - \boxed{\text{ク}} \right)$  倍である. ただし  $\boxed{\text{キ}}$ ,  $\boxed{\text{ク}}$  には有理数が入るものとする.



1

- (1)  $\sum_{k=1}^n \frac{1}{3k(3k+3)} = \boxed{\text{ア}}$  である。
- (2) 関数  $f(x) = \left(\frac{4}{2^x}\right)^x$  は、 $x = \boxed{\text{イ}}$  のとき最大値  $\boxed{\text{ウ}}$  をとる。
- (3)  $(x+1)^{26}$  の展開式における  $x^2$  の項の係数は  $\boxed{\text{エ}}$  である。  $26^26$  を  $625$  で割ったときの余りは  $\boxed{\text{オ}}$  である。
- (4) さいころを3回投げ、出た目を順に  $x, y, z$  とする。このとき、 $x \leq y \leq z$  となる場合は  $\boxed{\text{カ}}$  通りである。
- (5) 実部が1であり、虚部が正である複素数  $z$  において、 $z^3$  の虚部  $y$  がとりうる値は  $y \leq \boxed{\text{キ}}$  である。
- (6)  $0 < \alpha < \frac{\pi}{2}$ ,  $\pi < \beta < \frac{3}{2}\pi$ ,  $\tan \alpha = 2$ ,  $\tan \beta = 3$  のとき、 $\cos(2\alpha + \beta) = \boxed{\text{ク}}$  である。
- (7)  $0 < a < 4$  とする。直線  $l: y = ax$  と放物線  $C: y = 4x - x^2$  の共有点のうち、 $x$  座標が正である点を  $P$  とおく。この点  $P$  の  $x$  座標は  $a$  を用いて表すと  $\boxed{\text{ク}}$  である。また、 $C$  と  $l$  により囲まれた部分の面積と、 $l$  と  $x$  軸と直線  $x = \boxed{\text{ケ}}$  により囲まれた部分の面積の比が  $2:1$  になるのは、 $a = \boxed{\text{コ}}$  のときである。

1

97<<3. 部分分数分解の利用!

$$(1) \sum_{k=1}^n \frac{1}{3k(3k+3)} = \frac{1}{9} \sum_{k=1}^n \frac{1}{k(k+1)} = \frac{1}{9} \sum_{k=1}^n \left( \frac{1}{k} - \frac{1}{k+1} \right) = \frac{1}{9} \left\{ \left(1 - \frac{1}{2}\right) + \left(\frac{1}{2} - \frac{1}{3}\right) + \dots + \left(\frac{1}{n} - \frac{1}{n+1}\right) \right\}$$

$$= \frac{1}{9} \left(1 - \frac{1}{n+1}\right) = \frac{n}{9(n+1)}$$

(2)  $f(x) = \left(\frac{4}{2^x}\right)^x = (2^{2-x})^x = 2^{x(2-x)}$  ここで  $x(2-x)$  は  $x=1$  で最大値1をとるので、 $2^{x(2-x)} \leq 2$  であり、  
 $(a^x)^c = a^{xc}$   $f(x)_{\max} = f(1) = \underline{2}$

(3) 結局、 $26^k$  の  $x$  の  $25$  の場合の数が係数となる。

よって  $x^k$  の係数は  ${}_{26}C_2 = \frac{26 \cdot 25}{2} = 13 \cdot 25 = \underline{325}$   
 $26 = 25 + 1$  を利用する。

また、  
 $26^{26} = (25+1)^{26} = {}_{26}C_0 + {}_{26}C_1 \cdot 25 + \dots + {}_{26}C_{25} \cdot 25^{25} + {}_{26}C_{26} \cdot 26^{26}$   
 $= 1 + 26 \times 25 + (25 \text{ の倍数})$   
 $= 1 + (25+1) \times 25 + (25 \text{ の倍数})$   
 $= 1 + 25 + (25 \text{ の倍数})$  よ、余りは  $\underline{26}$

(4) 結局 1-6 まで重複を許して数えろよの組合せ等しい。

よって 棒 20 の  $6$  まで並べる場合の数を考えて、 ${}_{20}C_2 = \frac{20 \cdot 19}{2} = \underline{190}$

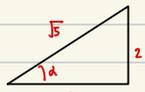
(5)  $z = 1 + \beta i$  とする ( $\beta > 0$ )  $z^3 = (1 + \beta i)^3 = 1 - 3\beta^2 + 3\beta i - \beta^3 i$   
 $= (1 - 3\beta^2) + (3\beta - \beta^3) i$

よ、 $\beta > 0$  における  $3\beta - \beta^3$  の Max を考える。

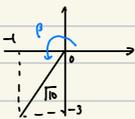
$(3\beta - \beta^3)' = 3 - 3\beta^2 = 3(1 - \beta^2)$  よ、右図より、 $\beta = 1$  で Max となるので  
 虚部  $y$  がとりうる値は、 $y \leq (3\beta - \beta^3)|_{\beta=1} = \underline{2}$



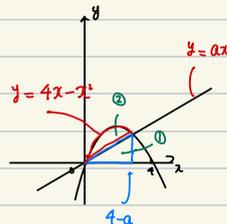
(6) まず、 $0 < \alpha < \frac{\pi}{2}$  の図のようになります。  $\sin \alpha = \frac{2}{\sqrt{5}}$ ,  $\cos \alpha = \frac{1}{\sqrt{5}}$  (7)



$\pi < \beta < \frac{3}{2}\pi$  のとき  $\sin \beta = -\frac{3}{\sqrt{16}}$ ,  $\cos \beta = -\frac{1}{\sqrt{16}}$  であるので、



$$\begin{aligned} \cos(2\alpha + \beta) &= \cos 2\alpha \cos \beta - \sin 2\alpha \sin \beta \\ &= (2\cos^2 \alpha - 1) \cos \beta - 2\sin \alpha \cos \alpha \sin \beta \\ &= \left(\frac{2}{5} - 1\right) \left(-\frac{1}{\sqrt{16}}\right) - 2 \cdot \frac{2}{\sqrt{5}} \cdot \frac{1}{\sqrt{5}} \left(-\frac{3}{4}\right) \\ &= \frac{3}{5\sqrt{16}} + \frac{12}{5\sqrt{16}} = \frac{3}{\sqrt{16}} \end{aligned}$$



$ax = 4x - x^2$  を  $x \neq 0$  かつ

$a = 4 - x \therefore x = 4 - a$

条件より

$\frac{1}{2} a (4 - a)^2 = \frac{1}{2} (4 - a)^3 = 1 \therefore$

$\therefore a = \frac{1}{2} (4 - a) \therefore a = \underline{\frac{4}{7}}$



2

四面体 OPQR において

$$OP = OQ = PQ = 2, \quad QR = 2\sqrt{3}, \quad OR = 4, \quad PR = 3\sqrt{2}$$

であり、 $\vec{OP} = \vec{p}$ ,  $\vec{OQ} = \vec{q}$ ,  $\vec{OR} = \vec{r}$  とおく。

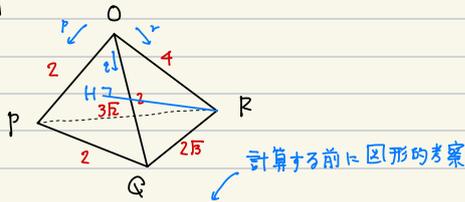
(1)  $\vec{p} \cdot \vec{q} = \text{ア}$ ,  $\vec{q} \cdot \vec{r} = \text{イ}$  である。

(2)  $\cos \angle POR = \text{ウ}$ ,  $\vec{p} \cdot \vec{r} = \text{エ}$  である。

(3) 3点 O, P, Q を通る平面を  $\alpha$  とし、点 R から  $\alpha$  へ下ろした垂線と  $\alpha$  の交点を H とする。 $x, y$  を実数として、 $\vec{OH} = x\vec{p} + y\vec{q}$  とおく。 $\vec{p} \cdot \vec{RH}$  を  $x, y$  を用いて表すと  $\vec{p} \cdot \vec{RH} = \text{オ}$   $x + 2y - 1$  であり、 $\vec{q} \cdot \vec{RH}$  を  $x, y$  を用いて表すと  $\vec{q} \cdot \vec{RH} = \text{カ}$   $x + 4y - 4$  であるから、 $x = \text{キ}$ ,  $y = \text{ク}$  となる。

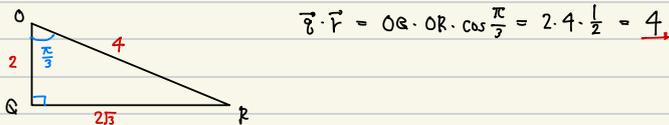
(4) 直線 PH と直線 OQ の交点を L とすると、 $OL : LQ = \text{ケ}$  : 1 である。

2



(1)  $\triangle OPQ$  は正三角形であるので  $\angle POQ = \frac{\pi}{3}$  より  $\vec{p} \cdot \vec{q} = OP \cdot OQ \cdot \cos \frac{\pi}{3} = 2 \cdot 2 \cdot \frac{1}{2} = 2$ 。

また  $\triangle OQR$  についても下図より  $30^\circ, 60^\circ, 90^\circ$  の直角三角形より。



$$\vec{q} \cdot \vec{r} = OQ \cdot OR \cdot \cos \frac{\pi}{3} = 2 \cdot 4 \cdot \frac{1}{2} = 4$$

(2) 余弦定理より、 $\cos \angle POR = \frac{2^2 + 4^2 - (3\sqrt{2})^2}{2 \cdot 2 \cdot 4} = \frac{1}{8}$

$$\vec{p} \cdot \vec{r} = OP \cdot OR \cdot \cos \angle POR = 2 \cdot 4 \cdot \frac{1}{8} = 1$$

(3)  $\vec{OH} = x\vec{p} + y\vec{q}$  とする。 $\vec{RH} = \vec{OH} - \vec{OR} = x\vec{p} + y\vec{q} - \vec{r}$   
 ここで  $\alpha \perp RH$  より、 $\vec{p} \perp \vec{RH}$ ,  $\vec{q} \perp \vec{RH}$  より、 $\vec{p} \cdot \vec{RH} = 0$ ,  $\vec{q} \cdot \vec{RH} = 0$  である。

$$\begin{aligned} \vec{p} \cdot \vec{RH} &= \vec{p} \cdot (x\vec{p} + y\vec{q} - \vec{r}) = x|\vec{p}|^2 + y\vec{p} \cdot \vec{q} - \vec{p} \cdot \vec{r} \\ &= 4x + 2y - 1 = 0 \quad \text{--- ①} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \vec{q} \cdot \vec{RH} &= \vec{q} \cdot (x\vec{p} + y\vec{q} - \vec{r}) = x\vec{p} \cdot \vec{q} + y|\vec{q}|^2 - \vec{q} \cdot \vec{r} \\ &= 2x + 4y - 4 = 0 \quad \text{--- ②} \end{aligned}$$

①②をいいて、 $(x, y) = \left(\frac{1}{8}, \frac{7}{8}\right)$

(4) L はまず、OQ 上にあるので、 $\vec{OL} = \alpha \vec{q}$  ( $\alpha \in \mathbb{R}$ ) --- ③

また L は PH 上にあるので、 $\vec{OL} = (1-\beta)\vec{p} + \beta\left(-\frac{1}{8}\vec{p} + \frac{7}{8}\vec{q}\right)$   
 $= \left(1-\frac{9}{8}\beta\right)\vec{p} + \frac{7}{8}\beta\vec{q}$  ( $\beta \in \mathbb{R}$ ) --- ④

$\vec{p}, \vec{q}$  が一次独立であることに注意して、③④の係数を比較して、

$$\begin{cases} 1 - \frac{9}{8}\beta = 0 \\ \frac{7}{8}\beta = \alpha \end{cases} \quad \therefore \alpha = \frac{7}{8}, \quad \beta = \frac{3}{4} \quad \text{より、下図より}$$

$$OL : LQ = 7 : 1$$



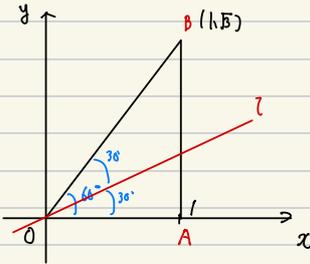
3

$x, y$  平面上に3点  $O(0,0), A(1,0), B(1, \sqrt{3})$  をとり,  $\triangle AOB$  を考える.

- (1)  $\angle AOB$  を二等分する直線  $l$  の方程式は  $y = \square{\text{ア}}$  である.
- (2)  $\triangle AOB$  に内接する円  $C$  の半径は  $\square{\text{イ}}$  であり, 中心の  $x$  座標は  $\square{\text{ウ}}$  である.
- (3)  $l$  と  $C$  の共有点であり,  $O$  との距離が小さい方の点を  $D$  とする. 点  $D$  の  $x$  座標は  $\square{\text{エ}}$  である.
- (4) 辺  $OA, OB$  と  $C'$  に接する円  $C'$  の半径は  $\square{\text{オ}}$  であり, 中心の  $x$  座標は  $\square{\text{カ}}$  である.
- (5)  $OA$  と  $C, C'$  で囲まれた部分の面積は,  $C'$  で囲まれた部分の面積の  $\left( \square{\text{キ}} \frac{\sqrt{3}}{\pi} - \square{\text{ク}} \right)$  倍である. ただし  $\square{\text{キ}}, \square{\text{ク}}$  には有理数が入るものとする.

3

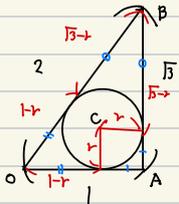
(1)



$\angle AOB = 60^\circ$  より, 二等分線は  $x$  軸と  $30^\circ$  の角をなすので,

$$\therefore y = \left( \tan \frac{\pi}{6} \right) x = \frac{\sqrt{3}}{3} x$$

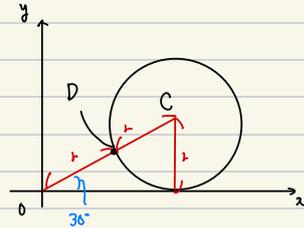
(2) 内接円の半径を  $r$  とすると  $2 = \sqrt{3} + 1 - 2r \therefore r = \frac{\sqrt{3}-1}{2}$



非座標は  $C(x_c, y_c)$  とする

$$x_c = 1 - r = \frac{3-\sqrt{3}}{2} \quad \text{非} \quad y_c = \frac{\sqrt{3}-1}{2}$$

(3)

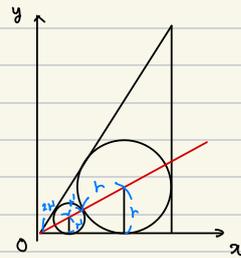


左図より  $OC$  中点が  $D$  点

$D$  の  $x$  座標は

$$\frac{1}{2} x_c = \frac{3-\sqrt{3}}{4}$$

(4)



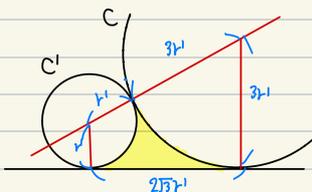
$C'$  の半径を  $r'$  とする.

(3) と同様にして左図を考えると

$$3r' = r \therefore r' = \frac{r}{3} = \frac{\sqrt{3}-1}{6}$$

非中心の  $x$  座標は  $\sqrt{3}r'$  より,  $x = \frac{3-\sqrt{3}}{6}$

(5)



黄色部分の面積が,  $OA, C, C'$  で囲まれた部分の面積

これは

$$\text{①} - \text{②} - \text{③} \quad \text{で計算でき.}$$

$$\text{①} : \frac{1}{2} \times (r' + 3r') \times 2\sqrt{3}r' = 4\sqrt{3}(r')^2$$

$$\text{②} : \frac{1}{2} (r')^2 \cdot \frac{2}{3} \pi = \frac{\pi}{3} (r')^2$$

$$\text{③} : \frac{1}{2} (3r')^2 \times \frac{\pi}{3} = \frac{3}{2} \pi (r')^2$$

よってこの面積は,  $4\sqrt{3}(r')^2 - \frac{11}{6} \pi (r')^2 = \left( \frac{4\sqrt{3}}{\pi} - \frac{11}{6} \right) \pi (r')^2$

$\rightarrow C'$  で囲まれた面積

